

使用前の伝票が発色している(発色カブリ)というトラブルがありますが、感圧紙への枚葉、フォーム輪転印刷および加工上での注意点をQ&A方式でまとめました。基本的なことがほとんどですが、再確認の意味でご活用ください。

## 感圧紙への印刷、加工時のポイント

印刷、加工上の発色トラブル(発色カブリ)の解消

### ポイント

版材(凸版、ブランケット)は軟らかめのものを使用する。  
印圧をできるだけ低くする。着肉とのバランスを見ながら調整する。  
コロ、ガイドローラーなど圧や擦りがかかる箇所の圧を強くしない。また、これらの回転を良くする。

### Q1

伝票の状態が全面発色していることがありますが、何が原因でしょうか？

### A

全面がほぼ一様に発色するのは、オフセット印刷の場合が大半です。オフセット印刷では、印圧が紙面に均一にかかるからです。この発色は、発色している用紙(B紙、C紙)の上の用紙(A紙、B紙)の印刷時に印圧が高く、カプセル破壊が多く発生しているためです。

対策としては、印刷時の印圧を下げます。また、版材に軟らかめのものを使用していただくこともお願いいたします。

湿し水が多すぎると薄かぶりが発生する場合があります。(B紙)

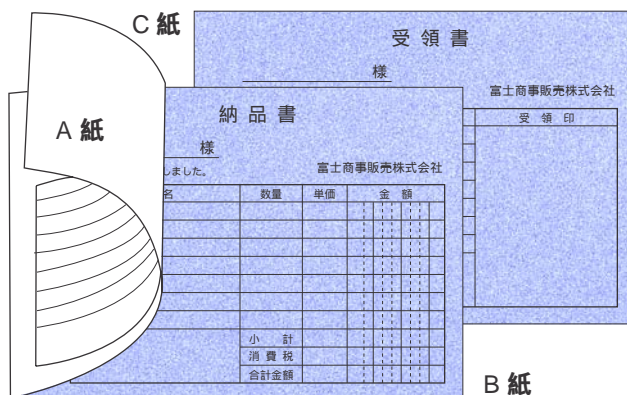
地汚れがでない程度に湿し水を減らしてください。

その他、凸版の場合、印刷箇所だけに発色が見られることがあります。版材が硬く、また、印圧が高くなるとカプセル破壊が起こり、このような発色となります。

版材に軟らかめのものを使用し、印圧を下げてください。

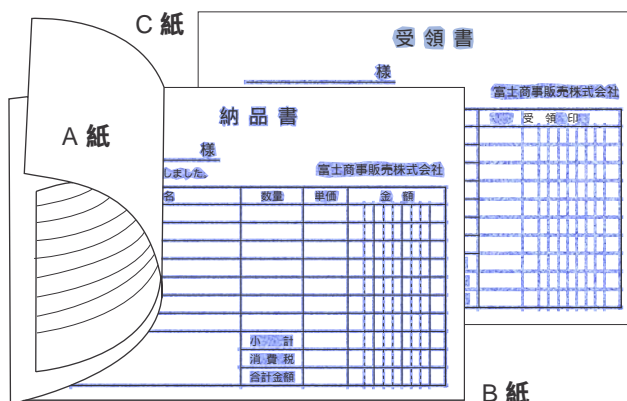
### 【オフセット印刷の場合】

全面にカブリ(発色)が見られる。  
A紙、B紙でカプセル破壊が起こっている。



### 【凸版印刷の場合】

B紙(2枚目)の印圧が高かったため。



【印圧の調製】「印圧は何キロぐらいが適正か？」というご質問をいただきますが、版材(ブランケットや凸版)の硬さや印刷機の調製具合などによって変化するため、一概に「何キロが適正」ということは困難です。調製方法としては、着肉を確認しながら、できるだけ印圧をさげていただくこととなります。それでも改善が見られない場合には、ブランケットを軟らかめのものへの変更をおねがいいたします。

ブランケットや凸版が古くなると用紙への着肉が悪くなり、印圧を普段より高めに設定する傾向がありますので、早めに交換することをお勧めします。



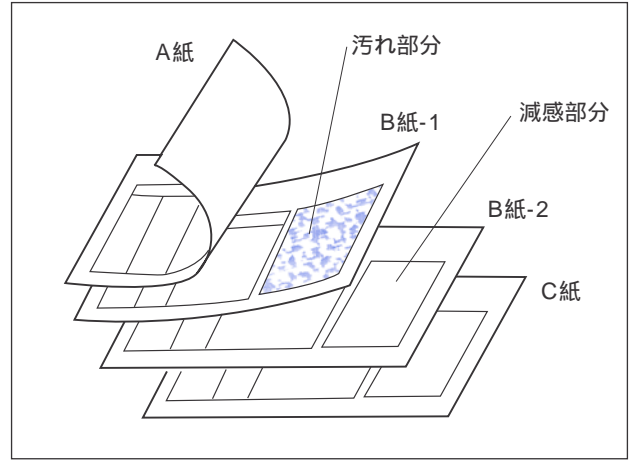


Q7

4枚伝票で3枚目に減感印刷をしていますが、減感インキの盛量が多くて、上のB紙にインキがヌケて発色不良とカブリが発生しているといわれました。発色不良は分かるのですが、なぜカブリが発生するのでしょうか？

**凸版印刷での類似の質問：**

B紙に減感印刷をしていますが、すぐ上のB紙に下のB紙の減感部分とそっくりな発色面が現れました。なぜでしょうか？

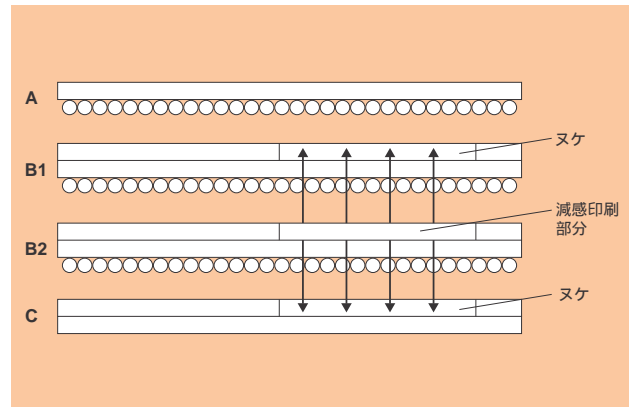


A

この現象は、減感インキの盛量が多くヌケが発生していることと、上のB紙でカプセル破壊が多くなっている場合に発生します。

上の用紙に減感インキが浸透するときに壊れたカプセルから染料を引き出し減感インキと染料と一緒に用紙の表面(顕色面)に移動します。

また、インキの浸透は均一に起こらないため、浸透した量が多い箇所と少ない箇所が発生します。ご存知の様に減感インキは、盛量が少ないと効果がでませんので、減感インキの多い箇所は、発色不良が発生し、染料が多い箇所は発色カブリが発生することになります。



特に、減感印刷を凸版で行う場合減感印刷はベタ面ですので印圧が高くなりがちで、カプセル破壊が多く発生することがあります。

減感印刷の印圧を下げ、また減感インキの盛りすぎに注意し、様子を見ながら適量を盛るように調整してください。